

河合芳尚の読図コーナー

連載第2回 コンパスと地図の整置

執筆者の紹介

河合芳尚氏は、豊川山岳会のメンバーで、国立登山研修所の安全登山普及指導者中央研修会の読図講師を務めています。コンパスの使い方や地図読みの技術を指導し、登山者の技術向上と安全登山の普及に貢献しています。

コンパスの利用

今回のテーマは「コンパスと地図の整置」です。登山で使用するコンパス（方位磁石）は「プレートコンパス」が使いやすく、お勧めです。

コンパスの利用は難しいと思われる方も多く、実際に登山中に地図とコンパスを取り出して現在位置を確認している人をあまり見かけません。

読図講習会では、「コンパスの使い方練習シート」（豊川山岳会HP参照）を使って

説明していますが、初心者の方でも「こうやってコンパスを使うのか」と理解してくれません。そして、3時間の講習の終わりに、コンパス操作が10秒でできるようになるので驚きです。

コンパス操作は難しくありません。できないのは、教えてもらっていないことと、使おうとしないことが原因です。

地図アプリを利用して現在位置を把握し、コンパスを使用し進めべき方向を確認できれば、初めての山でも不安になることはありません。

整置の方法

コンパスの話をする上で、もう一つ大切な要素があります。それは地図の「整置」です。地形と地図の方向を一致させることを「整置」といいますが、これをしないと、頭の中で進行方向にズレが生じます。

「整置」の方法は、地図に磁北線を引き、磁北線の北とコンパスのNマークを合わせただけです。とても簡単ですが、実際に行っている人は少ないかもしれません。

オリエンテーリングの上級者になると、地図をコンパスで整置するところまでは同じですが、そもそもリングが回らないコンパスを使用しているため、「コンパス1・2・3」の手続き（①現在位置と目的地をコンパスの長辺で合わせる。②リングを回し、Nマークを磁北線の北に合わせる。③Nマークと磁針の北を一致させる。）は行わず、地図の整置だけで思った場所へと走っていきます。驚くべき技術ですね。

私の失敗談

さて、私の失敗談です。昨年のオリエンテーリング大会で「整置」を行い、「コンパス1・2・3」の操作をして走り出したのですが、地形とイメージが全く合いませんでした。焦りました。完全に現在位置をロストし、分かる場所まで戻ることになりました。

原因は、磁北線の北と南を間違えて、全く逆の方向に走っていたことでした。この間違いは、講習会でコンパスの説明をした際に初心者の方がよくやる初歩的なミスですが、私も修行が足りません。反省です。

最後に、単にコンパスが使えるだけでは不十分です。例えば、積雪期のガスに覆われた状況の中でコンパスを頼り



に歩くのは不安になると思います。

オリエンテーリングの競技では、コンパスだけを頼りに真つ直ぐ何百メートルも走ることがありますが、それは不安との戦いです。コンパスを信じて進むのですが、いつも「大丈夫かな？」と思ってしまいます。

コンパスを信じるためには、何度も繰り返し使うことが最も重要だと思います。次回は、「磁北線」について触れてみたいと思います。

冬山装備のメンテナンス工房

HAREYAMA

なにより「安全」のためです。命を守ってくれる相棒を大切に。

冬山装備のメンテナンス
アイゼン・ピッケル研ぎます

株式会社ウォームリンク
〒470-0135 愛知県日進市岩崎台 1-130
Tel. 0561-72-2805

hareyama.net